

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東京芸術大学	主な交流先	英国・インド・オーストラリア
事 業 名	Shared Campus（国際共創キャンパス）を活用した日英豪印 SDGs x ARTs グローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー		
海 外 の 相 手 校	ロンドン芸術大学、ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン、モナシュ大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、英・豪・印の大学と連携し、「持続可能な社会づくりに取り組む国際協働による芸術教育・研究プログラム」の構築と「社会と芸術をつなぐグローバルリーダーの養成」を目的に、インターローカルな社会実践プロジェクトを展開しようとするものである。芸術系大学間の国際交流スキーム「Shared Campus」を利用し、教育と研究のネットワークを構築するとともに、SGU 事業や他年度の大学の世界展開力事業での実績を活用し、かつ行政や企業とも連携した事業展開を目指そうとする意欲的なプログラムである。

また、事業計画としては、今年度の本事業の特徴でもあるオンラインの活用、ならびにインターンプログラムを組み合わせた活動が企画されており、政策実践や企業の社会貢献活動、地方芸術祭への参加等、実践を通して「SDGs×ARTs」を学ぶ機会が設けられている他、本事業の成果を、学内にとどまらず、コンテンツとして JV-Campus での授業科目として配信する計画も盛り込まれている点も評価できる。さらに既存の「TURN」プロジェクトで展開されている学生サミットを活用し、学生主導の「SDGs×ARTs ラウンジ」を、国内外を通じてオンラインで開催することが企図されている点も興味深い。

一方、「Shared Campus」においては教育ツール開発が行われ、本事業でも英国の大学とのダブルディグリー構築を目指すとしている。しかしながら具体的な計画は今後の検討に委ねられており明確ではない。特にその実施に際しては、4カ国間の学事暦の調整や単位互換制度等、大学間の密接な運営連携が必要不可欠であり、質保証を担保して共同学位をどのように実現するかはプログラムの成否を分ける重要な課題である。また Shared Campus における「国際協創」の活動ではそれを支える高い語学力が基本であるが、プログラムへの参加要件として設定されている英語水準は低く、交流プログラムに必要な英語教育の拡充が早急に求められる。こうした事業の運営体制や質保証を考慮したプログラムが構築されてこそ、本事業で取り上げられている世界的課題解決に向けた「21 世紀の芸術大学」が「果たすべき役割」の実現が可能になると考える。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。